

日本教育社会学会主催 若手研究者交流会 2024年3月10日 @広島オフィスセンター+Zoomオンライン

ラウンドテーブル1 (対面)	タイトル	概要
12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	三品拓人 (関西大学・日本学術振興会特別研究員 (PD))	「児童養護施設における『不登校』をめぐる葛藤」
13:30 ~14:10	眞田英毅 (同志社大学文化情報学部・大学教員: 助手・助教・専任講師)	「学校外教育は多様化したのか」
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	前田麦穂 (國學院大学・大学教員: 助手・助教・専任講師)	「教員採用制度の国際比較: PISA2022の探索的分析から」
15:10 ~15:50	上地香社 (静岡大学・大学教員: 助手・助教・専任講師)	「人口減少社会における高校教育の存続と削減に関する基礎的検討」
15:30 ~16:00	総合討論	
ラウンドテーブル2 (対面)		
12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	杉山美菜子 (鎌倉女子大学・学部生)	「小学校における児童の社会経済的背景と授業方法の関連— TALIS2018を用いた定量的分析—」
13:30 ~14:10	宇田智佳 (大阪大学大学院・博士後期課程)	「児童養護施設で暮らす子どもたちの生活世界に関する社会学的研究」
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	鈴木昌 (上智大学大学院・博士後期課程)	「福祉事業型専攻科に通う障害者にとつての自立—親を対象としたインタビュー調査を中心に—」
15:10 ~15:50	中原慧 (京都大学大学院・博士後期課程)	「移民的背景のある子どもの学力にかかわる言語的要因の影響」
15:30 ~16:00	総合討論	

日本教育社会学会主催 若手研究者交流会 2024年3月10日 @広島オフィスセンター+Zoomオンライン

ラウンドテーブル3 (対面)

12:40 ~12:50	自己紹介		
12:50 ~13:30	豊島伊織 (京都大学大学院)	「子ども食堂の特質に関する基礎分析：潜在クラス分析から浮上する『教育』」	本報告では2021年に実施された「全国こども食堂実態調査」データを用いて、全国の「子ども食堂」の特色を量的に検討する。具体的には以下の3点の分析結果を報告する。第一に、子ども食堂がどのようなアクターによって担われているのかを、記述統計などから整理する。第二に、子ども食堂の諸類型を知るために、子ども食堂の実施目的および実施内容に対して潜在クラスモデルを適用し、子ども食堂をいくつかのクラスに分類する。第三に、析出された潜在クラスを割り当てて従属変数とし、どのような特徴を持つ子ども食堂がそのクラスに該当するのかを多項ロジット分析によって明らかにする。
13:30 ~14:10	山田航汰 (関西大学大学院)	「貧困の世代間連鎖解消に向けた政策の検討」	児童養護施設Xでは、近年「不登校」の子どもが増えている。そこで予備調査という位置づけで、現場を見学し、職員に話を伺った。児童養護施設Xにおいて「不登校」の子どもが増えていった過程、子ども側の理由、職員の実際の対応や子どもとの関わりを整理して記述する。「不登校」をめぐる葛藤が異なることに焦点を当てて考察を行う。
14:10 ~14:30	休憩		
14:30 ~15:10	水野聖良 (大阪大学大学院)	「居場所に来ることの捉えられ方—スタッフの視点から—」	現代社会において、子ども・若者の学びや育ちは学校や家庭だけではなくなっている。例えば、オープンアクセスな青少年向け居場所施設には、定期的に来館する「常連」の子ども・若者たちが存在する。本報告は、そのような施設の1つであるユースセンターに着目し、場における「常連」の子ども・若者たちをスタッフはどのように捉えているのかという点に着目して検討を行う。フィールドワーク調査の結果、スタッフ
15:10 ~15:50	小西凌 (三重大学大学院)	「新型コロナウイルス感染拡大における家庭・学校環境は努力有効感にどのように関連するのか」	希望格差社会という言葉に象徴されるように、現代社会に広がる「努力は報われない」という社会的なムードの蔓延が度々問題視される。2021年の流行語大賞にもランクインした「親ガチャ」というスラングの含意には、「どんな親の元に生まれるかは運次第であり、人生は家庭環境に大きく左右される」とあり、将来に対する諦観には、家庭環境の印象が大きく左右されることが示唆された。
15:30 ~16:00	総合討論		
*一般参加者 瀬戸健太郎 (立教大学)			

ラウンドテーブル4 (対面)

12:40 ~12:50	自己紹介		
12:50 ~13:30	野下留則 (京都大学大学院・博士前期/修士課程)	「『性関連情報』の社会学」	1990年代以降のジェンダーバックラッシュや1998年の学習指導要領の「はどめ規定」の成立後、日本の学校現場では、性教育の実施に対する制限がかかっている現状がある。このように、学校現場での性教育が不十分だと想定される社会で、人々はそのように、整理、生殖や避妊、妊娠、中絶、出産、性感染症の予防といった性に関する知識を得て、実践に活用しているのだろうか。本発表では、トロシースミスの「日常的知識」と「専門的知識」の概念や、ポリメディア理論に依拠しつつ、すでに実施した半構造化インタビューを分析する。そのうえで「友人との会話がつくる日常知が専門知識の獲得の入り口となっていること」、結果として「医学的に『正しい情報』へのアクセスの成否は、周囲の人との関係性という偶然的要因が作用していること」等を指摘する。
13:30 ~14:10	金弘実久 (広島大学大学院・博士後期課程)	「資格課程における女子学生の『進路変更』経験—母と娘との特殊な関係性に着目して—」	本研究の目的は、資格課程に在籍する女子学生の〈語り〉から、大学入学後の「進路変更」経験がいかに語られるかを検討することである。また本報告では、調査対象者とその母親との関係性に着目して〈語り〉を分析する意義を考えたい。先行研究では、女性のライフコースに「母親の期待」が大きく影響を与えることが明らかにされてきた。しかし、母親関係に影響を受けた若者の進路選択がいかにして語られるかについては着目されてきていない。そこで、資格取得を見据えて大学に入学した女子学生の進路選択経験について、母親関係に着目して記述することで、大学入学後に「進路変更」を考える若者の進路選択の過程を詳細に描き出した。
14:10 ~14:30	休憩		
14:30 ~15:10	九鬼成美 (東京大学大学院・博士後期課程)	「大学のキャリア教育科目の中のジェンダーに関する授業内容の様相」	本発表では、大学のキャリア教育科目のシラバスの分析を行うことによって、その全体像、特にジェンダーに関する授業内容の様相と、大学や授業の属性から内容の偏りを検証することである。そのため、全大学を対象として計4527科目のシラバスのテキストにテキストマイニング分析を行った。まず授業の内容を概観し、抽出語のクラスター分析によって授業内容を分類した。次に、ジェンダーに関連する内容を含む授業をコーディングし、設置主体、大学の偏差値帯、学年、学部、地域、女子大学、担当教員の性別という変数とのクロス集計を行い、授業内容の傾向を検証した。最後に、ジェンダーに関連する内容を含む授業を読み込み、より深く踏み込んだ授業内容の文脈について内容分析を行う。
15:10 ~15:50	康凱翔 (広島大学大学院・博士後期課程)	「高等教育におけるAgentBasedModelの展開」	Agent Based Model (略: ABM)はボトムアップ的に、ミクロレベルにおける自律的に意思決定できる主体 (エージェント) を通して、マクロレベルの社会ダイナミクスをシミュレーションする手法である。エージェントは設定された環境の中に、一連のルールに基づいて学習・選択・生産などの行動を実行できる。さらに、エージェント間の相互作用を通して、システムの到達可能な状態を示すことができる。特に、社会科学において、創発現象の解明や社会秩序の生成を説明することが期待されている。本稿では、高等教育研究において、ABM手法が学習行動、大学選択行動などの課題における動向を概観し、機械学習、進化アルゴリズムなど新たな手法との結合を展望する。
15:30 ~16:00	総合討論		

日本教育社会学会主催 若手研究者交流会 2024年3月10日 @広島オフィスセンター+Zoomオンライン

ラウンドテーブル5 (対面)

12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	鴨下 智 (早稲田大学・学部生)	「企業が求める『主体性』と労働者の成長意識に関する実証分析」 本報告は、企業が求める「主体性」は実際に評価されているのか、ということについて労働者の成長に関する意識に着目して試論的に考察することを目的とするものである。
13:30 ~14:10	工藤 仁 (名古屋大学大学院・博士前期/修士課程)	「なぜ夢を追う若者は支援されるのか」 なぜ夢を追う若者は支援されるのか。夢を追う若者が無償で居住できるシェアハウスを事例とし議論したい。
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	水野 遼太郎 (京都大学大学院・博士前期/修士課程)	「『地方の若者』の移行と地域移動をめぐる困難—『地元つながらり』の空中分解プロセスから—」 教育・雇用の面で相対的に不利な「地方」においては移行と地域移動が密接に結びついており、近年では「地方の若者」の移行の困難が目立っている(尾川 2011など)。そこで本報告では、「地方の若者」が直面する移行の困難を、彼ら彼女らにとつてのセーフティネットとして語られてきた「地元つながらり」(新谷 2004、上原 2014など)の観点から分析する。 過疎地域出身の若者に対してインタビュー調査を行った結果、過疎地域で生まれ育った若者にとつて、「地元」で生き続けるという見通しは成立しない形で移行と地域移動は結びつくこと。それゆえ過疎地域においては、「地元」という場の社会関係が有する中長期的な互酬性への期待が縮小していくことによって、若者の「地元つながらり」の道具的機能が空中分解されていくことが明らかになった。
15:10 ~15:50	鈴鹿 翔大 (大阪大学大学院・博士前期/修士課程)	「新卒一括採用システムに乗る日系ブラジル人に関する社会学的研究—教育から労働への移行に着目して—」 本報告では、修士論文の研究計画を発表する。本研究の目的は、新卒一括採用システムに乗る日系ブラジル人の若者の「教育」から「労働」への移行の様相を明らかにすることである。これまで、初等中等教育を含む学校現場や移民第一世代の労働状況に着目する研究が蓄積されてきた。一方で、「高等教育」から「労働市場」へと移行する移民第二世代の姿は看過されてきたと言える。近年、移民第二世代における高等教育への進学が増加するように、初等中等教育だけでなく高等教育と労働の関係に着目する研究が要請される。そこで本研究はインタビュー調査の手法を用いて、新卒一括採用システムに乗る日系ブラジル人の若者の「教育」から「労働」への移行を検討する。
15:30 ~16:00	総合討論	

ラウンドテーブル6 (対面)

12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	千田 沙織 (名古屋大学大学院・博士前期/修士課程)	「教育困難校の生徒指導による自由と管理のジレンマ」 私は、博士課程において『教育困難校の生徒指導による自由と管理のジレンマ』を研究したいと考えている。昨今、ルールメイキングや学校内民主主義の啓発運動が広がってきているが、低学力や生徒指導上の問題を抱える学校においては、校則を中心とした厳しい生徒指導が行われている。本研究の目的は、教育困難校の生徒指導を通して、教員と生徒の間に生じる自由と管理のジレンマがどのように形成されているのかを明らかにすることである。教育困難校の一例として高等専修学校A校を取り上げ、A校の卒業生に対して半構造化インタビューを行うとともに、調査者である私(教員)の間でも記述する対話的構築主義のアプローチをとる。
13:30 ~14:10	宮崎 朔 (中央大学大学院・博士前期/修士課程)	「通学型通信制高校の社会的位置付けに関する一考察」 本発表は、来年度執筆予定の修士論文の一部分を想定するものである。報告者は、私立通学型通信制高校でのフィールドワークでえらえたデータをもとに修士論文の執筆を予定している。研究にあたって、通学型通信制高校がいかなる制度的位置付けにあるのか、その制度的性質によっていかなる生徒を受け入れやすい状況にあるのかを明確にしておく必要がある。そこで、通信制高校の制度的位置付けと置かれた社会的文脈を概観し、なかでも通学型通信制高校がいかなる特質をもった教育施設であるかを整理することを目的とする。それを通して、通学型通信制高校を研究する意義と今後の研究の展望を提示する。
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	尾河 勇太 (大阪大学大学院・博士前期/修士課程)	「非主流の後期中等教育機関における進路形成の研究—高等専修学校での学校経験を着目して—」 本研究では、非主流の後期中等教育機関、とりわけ高等専修学校卒業生に着目し、進路形成の背後にある学校経験を含めた事柄との関連から、高等専修学校の持つ意義と限界を明らかにしたい。研究手法はエスノグラフィを用いる。主流の後期中等教育機関(主に全日制高校)と対比した時に、非主流の後期中等教育機関では進路未決定のまま卒業する生徒が圧倒的に多い。一方で、高等専修学校に通う生徒の進路未決定率はかなり低いことが確認されている。しかし、進路決定率に関して強固なものがある反面、その進路決定内容及び卒業後の就学・就労の実態については脆弱であると言わざるを得ない。これらについて主にインタビュー調査から得られたデータを元に分析を行い、発表に臨みたい。
15:10 ~15:50	田垣内 義浩 (東京大学大学院・博士後期課程)	「進路形成に対する特進コース在籍の影響に関する地域間比較—都道県内の異質性に注目して—」 進路形成に対する特進コース在籍の影響に関する地域間比較—都道県内の異質性に注目して—
15:30 ~16:00	総合討論	

日本教育社会学会主催 若手研究者交流会 2024年3月10日 @広島オフィスセンター+Zoomオンライン

ラウンドテーブル7 (対面)

12:40~12:50	自己紹介		
12:50~13:30	秋山みき (大阪大学大学院・博士前期/修士課程)	「公正な教育実践の構築過程はいかなるものか—学校の社会的背景との関連に着目して—」	本研究の目的は、形式的平等を重視する日本の学校という文脈に埋め込まれながらも、生徒の多様なニーズに応じた公正な教育実践を行う二つの中学校におけるエスノグラフィーから、そうした実践の構築過程が学校の社会的背景によっていかんして異なるのかを検討することである。調査より、以下の2点が明らかとなった。まず、かつてからワーキングクラス・貧困層の割合が大きい状況があるA中においては、生徒の差異に焦点化する明確で顕在的な公正な教育実践が行われていた。そして、ミドルクラス家庭が増加して校区の階層分化が進行するB中においては、周囲との類似性を求める生徒の意思を尊重することで、ターゲットが明かされない公正な教育実践が行われていた。こうした公正な教育実践のあり方の差異の背景には、学校組織の有する歴史的文脈や現在通っている生徒の階層的背景によって規定される教員への役割期待の影響があった。
13:30~14:10	橋本みの里 (広島大学・研究生、金沢大学・事務職員)	「国立大学事務職員に関する修士論文の概要と博士課程研究計画」	修士論文では、某国立大学事務職員6人に現状と将来に対する認識について半構造化インタビューを行いKJ法により構造化し、今の自分にも将来にも肯定的なイメージをもつことができない状況にあることをまとめた。この結果を踏まえ、博士後期課程では自律的なキャリア形成を図ることが必要であるという前提に立ち、その心的な発達のプロセスに着目して、主として中年期の職業的アイデンティティの再構築および自己効力感の向上についてインタビュー調査と質問紙調査を実施し明らかにしたい。さらにキャリア自律の促進に寄与する研修コンテンツの作成についても試みる予定である。
14:10~14:30	休憩		
14:30~15:10	程文娟・鈴木浩輔・猿田静木・康凱翔 (共に広島大学大学院・博士後期課程)	「博士課程学生の共同研究に関する研究—動機付けと経験の視点から—」	近年、博士課程学生の共同研究が推奨され、研究遂行能力の育成を目指した共同研究プロジェクトや学際的な共同研究を促進するための研究費の援助といった様々な支援が提供されている。しかし、博士課程学生がどのように動機付けられ、どのように共同研究を行っているのか、その実態は明らかにされていない。本研究は、共同研究経験のある博士課程学生6名に、共同研究の動機付け・経験について半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。得られたデータを質的・内容的に分析した結果、業績・人間関係・研究能力・興味関心・協働力に関する動機付けが示された。また、共同研究を行う中で、協働能力の成長や人間関係の難しさなどを経験していることがわかった。
15:10~16:00	総合討論		

ラウンドテーブル8 (オンライン)

12:40~12:50	自己紹介		
12:50~13:30	赤城祐 (京都大学大学院・博士前期/修士課程)	「援助要請の社会学—『子どもの貧困』に焦点を当てて」	本報告は、これまで主に社会心理学や臨床心理学において研究されてきた「援助要請」が「子どもの貧困」研究の文脈の中に、いかにして位置付けられることが可能かを明らかにすることを目的とする。
13:30~14:10	江頭早紀 (津田塾大学大学院・博士前期/修士課程)	「障害がある子どもの学びの現状について」	障害がある子どもたちの学びについて、いくつかの視点から考察する。まず、障害がある子どもたちの学びに取り入れられている要素として、発達支援や療育の役割、内容に着目する。次に、学習や勉強的側面から、障害がある子どもたちの教科学習の現状を整理する。さらに、上記2つの側面が学校という場や学校外の家庭や放課後の場でどのように行われているのかを概観する。以上を通して、まず、障害がある子どもたちの学びの現状を整理することで、その問題点を指摘する。特に学習や発達支援の形骸化が起きてくる可能性を考えたい。さらに、障害がある子どもたちが「学ぶ」意味について、障害の社会モデルに依拠しながら論じていく。将来の自立に対するエンパワメントという意味を考えることで、現状の問題点が障害のある子どもの無力化につながっていることも指摘したい。
14:10~14:30	休憩		
14:30~15:10	新井寛規 (佛教大学大学院・博士後期課程)	「不登校の子をもつ親が抱える困りと葛藤」	
15:10~15:50	田野倉和子 (一橋大学大学院・博士後期課程)	「不登校経験者にとつての『自立』の検討—学校卒業後の進路に着目して」	2月に提出した博士論文の計画書の内容について報告する。論文の題目は、「不登校経験者にとつての『自立』の検討—学校卒業後の進路に着目して(仮)」である。本研究の目的は、学校教育を終えた不登校経験者の語りに注目し、不登校経験者の学校卒業後の進路移行過程を示すことで、本人にとつての「社会的自立」の解釈実践を明らかにすることである。研究方法は「自立」概念の理論的検討と当事者を対象としたインタビュー調査である。
15:30~16:00	総合討論		
*一般参加者	朱実雷 (早稲田大学) 今井聖 (琉球大学) 中野円佳 (東京大学) 小林成美 (上智大学) 安藤雄太 (日本大学)		

日本教育社会学会主催 若手研究者交流会 2024年3月10日 @広島オフィスセンター+Zoomオンライン

ラウンドテーブル9 (オンライン)

12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	八木悠太 (早稲田大学大学院・博士前期/修士課程、さいたま市立大砂土東小(教諭))	「なぜ保護者トラブルは起きないのかー消費社会における『キーピング・ストラテジー』」
13:30 ~14:10	韓在賢 (京都大学大学院・博士前期/修士課程)	「韓国系ニューカマー二世世代をどう捉えるか」
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	陳露文 (日本女子大学大学院・博士後期課程)	「在日中国移民家庭におけるジェンダー秩序の再編過程ー『両立母』に焦点を当てて」
15:10 ~15:50	桑田湧也 (会社員)	「オルタナティブスクールのシレンマ：『選別』と『ゲーム機の使用』をめぐる」
15:30 ~16:00	総合討論	
*一般参加者	中切正人 (元福井大学) 李俊 (早稲田大学) 馮容易 (早稲田大学) 島田樹里 (日本大学) 神内真利恵 (早稲田大学)	

ラウンドテーブル10 (オンライン)

12:40 ~12:50	自己紹介	
12:50 ~13:30	古閑大貴 (名古屋大学大学院・博士後期課程)	「合成統制法によるベンシルバニア州パフォーマンス・ファンディングの政策評価」
13:30 ~14:10	堀川優弥 (東京大学大学院・博士後期課程、事務職員)	「大学職員はなぜ自発的に行動できていないの」
14:10 ~14:30	休憩	
14:30 ~15:10	秋元みどり (青山学院大学・大学教員：助手・助教・専任講師)	「地域連携学習を担う実践者の能力形成」
15:10 ~16:00	総合討論	
*一般参加者	木村弘志 (東京大学) 山田智子 (佛教大学) 小泉かさね (大阪大学)	